

編集後記

週休二日の推進や建設キャリアアップシステムなどの働き方改革に関するキーワードに注目が集まる昨今の建設業界ですが、災害から人々の生活を守る防災という役割も担っています。

今月号の特集は、「ダム再生が描く水防災の未来」。ダム再生事業という切り口で紹介している2つの現場は、高度な技術力と周辺地域への配慮を欠かさず施工を進めています。今後大規模な災害が起こりうる日本において、ダムの重要性を改めて実感していただけると幸いです。(K)

今月号の特集の取材ではダム再生事業の難しさを改めて痛感しました。下流域に暮らす人々の安心と安全を約束するダムの機能を一瞬も止めることなく施工する。そこでは発注者と施工者が真剣に議論を闘わせ、最善の、いや、それ以上の技術を駆使しながら現場に対峙していました。この技術を支えるのは冷静な判断力と、生活の礎を守ろうとする熱い志。山奥に佇立するダムという巨軀に向かう背中から垣間見えたのは妥協を許さない確固たる土木屋スピリットでした。(E)

発行 一般社団法人 日本建設業連合会
〒104-0032
東京都中央区八丁堀2-5-1
東京建設会館
TEL 03-3553-4095
FAX 03-3551-4954
URL <http://www.nikkenren.com/>

発行者 山本徳治
企画・編集 一般社団法人 日本建設業連合会
広報委員会
制作 株式会社Kプロビジョン
デザイン 株式会社コンセント
印刷 株式会社耕文社

©2019 日本建設業連合会
「ACe建設業界」は日本建設業連合会の登録商標です

年間購読料：4,800円(送料込)

建設産業を 魅力ある職場に — 佐藤信秋参議院議員訴える —

日建連は2018年12月21日、ホテルニューオータニにおいて支部長会議を開催しました。会議終了後、佐藤信秋参議院議員をお招きし、「建設産業 魅力ある職場に」をテーマにご講演いただきました。

はじめに、ご自身が建設省(現・国土交通省)入省直後2年間、トンネル工場の現場に配属されたことに触れ、「戦後の日本は荒廃しており、インフラの整備が欧米に比べて大変遅れていたが、建設産業によって徐々にインフラが整備されていった。建設産業はその労働環境・作業内容から3K(きつい、汚い、危険)と言われていたが、中で働く建設技能者の人たちはその仕事に見合った給料が支給され出来上がったものが社会に役立つことから、やりがいをもって毎日働いていた」と振り返りました。

その後、公共投資悪玉論、政権交代等を経て公共事業費がピーク時から半減していったためインフラの整備がいまだに遅れたままになっていると指摘。最近自然災害が相次いでいる現状から国土強靱化の必要性、働き方改革の推進等を訴えるとともに、設計労務単価の6年連続の引き上げやダンピングの抑止に取り組んできたこれまでの実績を交えながら、公共工物品質確保促進法(品確法)の改正に意欲を示しました。

最後に、「新3K(給料が良い、休日が取れる、希望が持てる)によって建設産業を再び魅力ある職場にするために引き続き尽力する」と決意を述べ、講演を締めくくりました。



建設業界の今後の展望を語る佐藤信秋参議院議員

お
知
ら
せ